

臨床検査技術科における神経心理学検査導入の概要と問題点

◎村上 智美¹⁾、添田 智子¹⁾、山下 愛¹⁾、眞島 悦子¹⁾、大岩 れい子¹⁾、迫 欣二¹⁾
JA 愛知厚生連 知多厚生病院¹⁾

【はじめに】

当院は愛知県の知多半島南部に位置し、診療科 25 科、病床数 259 床、1 日平均外来患者数約 560 名の中規模病院で、篠島や日間賀島など離島医療の地域拠点病院にもなっている。近年、知多半島南部は人口減少傾向が著しく、老年人口が増加し、単独世帯化が急速に進んでいる。当院のリハビリテーション科では、年間 100 件以上の神経心理学検査を実施しているが、1 件あたり 2 時間程度要する予約検査のため、日を改めて来院してもらう必要があった。そのため、離島から来院される患者や高齢者、認知症患者様には負担が大きく、予約のキャンセル等で検査をできないことも多くみられた。本年度より臨床検査技術科（以下検査科）で神経心理学検査を外来でのスクリーニング検査と経時的フォローアップを目的に導入し、外来で検査を実施する体制を構築し、その概要と問題点について報告する。

【検査項目】

ミニメンタルステート検査(以下 MMSE)、長谷川式簡易知能評価スケール(以下 HDS-R)

【方法】

当院のリハビリテーション科で使用している検査用紙は MMSE と HDS-R 検査が同時に検査できるようになっている。その用紙を基に検査目的、重症度の指標を掲載し総合得点だけでなく、目的ごとの点数が判別しやすいように変更した。同時に AlaScore の点数を記入し、レビー小体型認知症疑いの把握ができるよう変更した。作業療法士より検査方法、注意事項、結果の判断等の指導を受け、一覧表を作成し、導入前に職員同士でテストを行い、言葉使いや判断に迷う解答についても一覧表

に記載し統一を図るためのツールとした。医師が外来診察時に生理検査オーダーから検査を依頼し、生理検査室で検査を実施する。検査用紙は 2 枚で、患者様が回答した内容を直接検査用紙に記入する。検査後、MMSE、HDS-R、AlaScore の点数を計算し検査用紙に記載する。その検査用紙を結果として報告し、スキャナーにて生理画像システム(PrimeVita)に取り込み、電子カルテの生理レポートから検査結果を参照できるようにした。

【まとめ】

リハビリテーション科が行う神経心理学検査は、MMSE、HDS-R 以外にも身体的機能検査などを含むさまざまな検査を実施している。検査結果とリハビリテーションを通して得た情報を解析し、考察まで記録されている。神経心理学検査は一度に行わず何回かに分け行われ、検査時間と結果報告にはこれまでかなりの時間を要していた。検査科で来院時に検査が可能となったために、再来院の負担を軽減し、未検査の防止にもつながると思われる。また、MMSE と HDS-R 検査のみを行うことで、15 分程で検査結果が得られ医師が気軽に検査依頼ができるようになった。検査科で実施する神経心理学検査には考察はないが、検査用紙を結果とし報告することで、合計点数だけでなく、目的ごとの点数、回答内容を確認できるようになった。フォローアップとスクリーニングを目的に外来で簡易に検査する体制を構築することで、離島から来院される患者や高齢者、認知症患者様の検査の負担だけでなく、付き添いされるご家族の方の負担も軽減できたと考える。

連絡先 0569-82-0395 (内 6717)